

シバムギ退治

Aさんは更新してまだ3年目の畑の乾草を「食いが悪い」と見せてくれました。草は播いたはずのチモシーではなくてシバムギでした。

早春遠目で見ると植生の良いイネ科主体草地在、畑に入り観察すると「シバムギだった」という畑は少なくありません。

シバムギは

1. 収量が少ないので刈り取りを遅らせたくなる
2. 倒伏し易く品質の低下を招く（葉、下敷きになったマメ科が腐る）
3. 糖分含量が低く良い発酵をしづらい

などにより牛には喜ばれない草となることが多いようです。



写真1 倒伏したシバムギ、立ってるのがチモシー

1. 草地をトウモロコシに転作

Aさんはシバムギを絶やすため、草地をトウモロコシに転作しました。



写真2 秋起こし翌春の畑



写真3 1年目トウモロコシ出芽後の様子

写真2はシバムギ主体となった草地を秋起こした翌春の様子。地中に埋没しなかったシバムギが再生しています。写真3は転作1年目トウモロコシ出芽後の様子。多くのシバムギとダイオウが見られます。もし草地更新していたら……………。



写真4 トウモロコシ作付け1年目除草剤で黄変したシバムギ



写真5 トウモロコシ作付け2年目（除草剤散布前）

除草剤散布後2週間程度でシバムギが黄化（写真4）その後ほとんどが枯死しました。作付け2年目でシバムギはほとんど見られなくなった（写真5）。ダイオウの実生が目立つ。

2 草地のトウモロコシへの転作効果



写真6 トウモロコシ作付け2年目刈り取り後生き残っているシバムギ



写真7 トウモロコシ作付け2年目刈り取り直後

転作2年目でシバムギはほとんど見られなくなりました。一部生き残っている個体がありますが、連作により絶やすことができます。ダイオウも翌春の除草剤で枯らすことができます。

シバムギ、ダイオウ退治に草地のトウモロコシ転作は有効です。